

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 城山 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 84人

② 数学 84人

5 留意事項

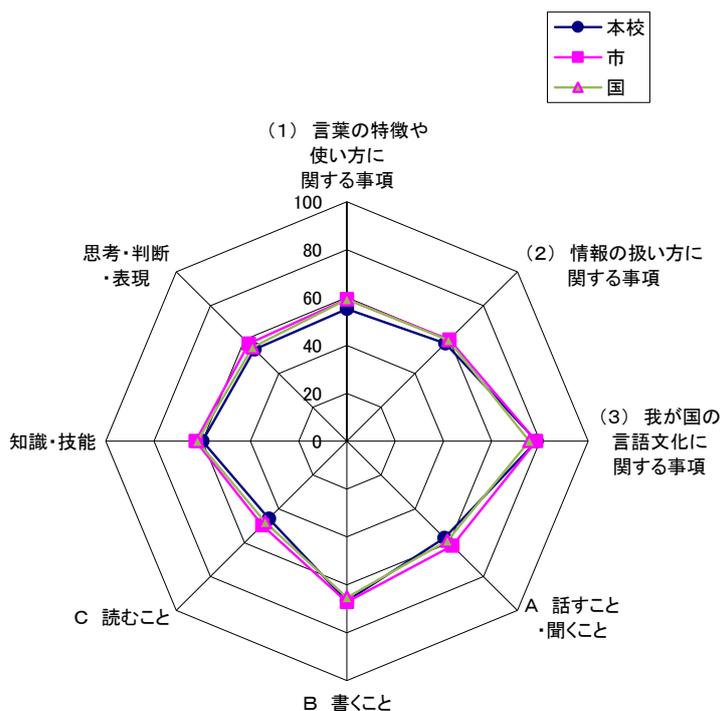
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	55.2	59.3	59.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	57.7	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.6	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	57.1	61.8	58.8
	B 書くこと	66.7	67.2	65.3
	C 読むこと	45.8	49.7	47.9
観点	知識・技能	59.9	62.7	62.0
	思考・判断・表現	54.2	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

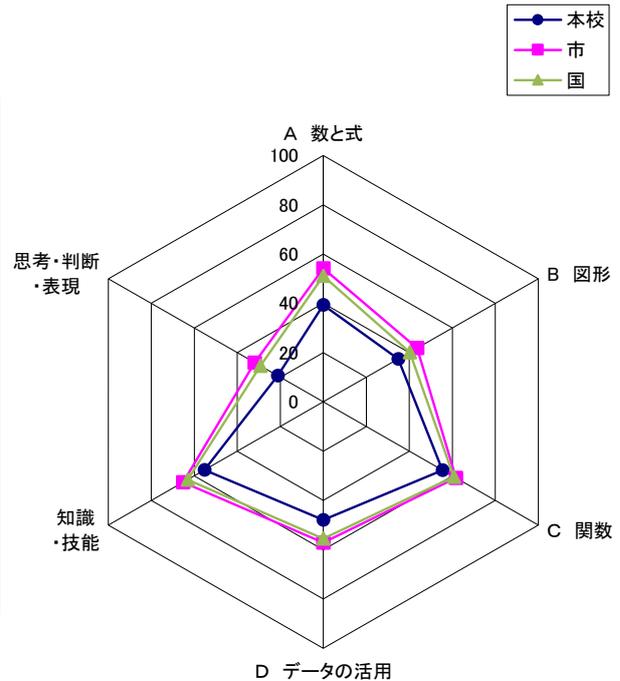
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均正答率より4.1ポイント、全国の平均正答率より4.0ポイント下回っている。 ○設問3三「満ち足りた」の漢字を答える問題では、県の平均正答率を2.0ポイント、全国の平均を1.2ポイント上回っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文法の既習事項を再度復習することで、理解の定着を図る。 ・授業の最初に、文法や言語に関する小テストを実施することで、理解の定着を図る。
(2) 情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均正答率より2.3ポイント、全国の平均正答率より1.9ポイント下回っている。 ○設問1三「話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する」問題では、県の平均を1.9ポイント、全国の平均を2.4ポイント上回っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報やデータをもとに意見文を書く学習活動を取り入れる。その際、情報から分かることを確認し、示している内容を整理するという過程を提示し、理解の定着を図る。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○全国の平均を3.0ポイント上回っている。 ○設問4三「行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する」問題では、県の平均を3.2ポイント、全国の平均正答率を3.0ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に我が国特有の言語文化に触れる機会を設け、自身の経験と結び付けながら内容や意味を理解できるように、授業内での言語活動に力を入れる。
A 話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均正答率より4.7ポイント、全国の平均正答率より1.7ポイント下回っている。 ○設問1一「話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する」問題では、県の平均を1.3ポイント、全国の平均を3.5ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の「話す」と「聞く」の活動を明確にし、他者意識をもって双方の活動を行う。 ・自分が伝えたい内容を整理し、順序立てて構成する学習内容を取り入れることで、理解の定着を図る。
B 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●「表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する」という問題では、県の平均を4.2ポイント、全国の平均を1.7ポイント下回っている。 ○全国の平均正答率より1.4ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報やデータをもとに、意見文を書く学習内容を取り入れる。 ・問われている内容を正確に理解し、正しい答え方で説明できるように課題やまとめを行い、書く力が高まるようにする。
C 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均正答率より3.9ポイント、全国の平均正答率より2.1ポイント下回っている。 ○観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかという問題では、全国の平均正答率を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開を理解し、表現の効果などについて根拠をもって説明できるように、再度丁寧に指導していく。

宇都宮市立城山中学校第3学年【数学】分類・区分別正答

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	39.3	54.2	51.1
	B 図形	34.9	43.6	40.3
	C 関数	55.4	61.7	60.7
	D データの活用	47.9	57.1	55.5
観点	知識・技能	55.3	65.2	63.1
	思考・判断・表現	21.2	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>●市の平均正答率より14.9ポイント、全国の平均正答率より11.8ポイント下回っている。</p> <p>○問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる問題では、正答率が80%を超えている。</p>	<p>・問題を読みとる読解力が不足していると感じる。問題文を段階的に咀嚼して読む指導をする。</p>
B 図形	<p>●市の平均正答率より8.7ポイント、全国の平均正答率より5.4ポイント下回っている。</p> <p>○回転移動について理解しているかどうかをみる問題では、正答率が60%を超えている。</p>	<p>・結論に行きつくまでのプロセスを大切に、公式や定理の使いどころを見極める指導をする。</p> <p>・物事を論理的に順序だてることの重要性を、実社会での具体例を通して体験させ、証明することに関心をもたせる。</p>
C 関数	<p>●市の平均正答率より9.2ポイント、全国の平均正答率より6.3ポイント下回っている。</p> <p>○二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題では、正答率が80%を超えている。</p>	<p>・グラフから情報を読み取るため、式・表・グラフは表現方法の違いであり、3つすべてが関連していることを指導する</p>
D データの活用	<p>●市の平均正答率より9.2ポイント、全国の平均正答率より7.6ポイント下回っている。</p> <p>○簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる問題では、正答率が70%を超えている。</p>	<p>・データ分析の基礎知識となる用語の意味を定着させ、多くのデータから必要に応じて適切な情報を選択できる力を身に付けさせる指導をする。</p>

宇都宮市立城山中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の設問に対し、肯定的割合が86.4ポイントとなっており、家庭での携帯電話やスマートフォンの使い方について、話し合いをしていることがわかる。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問に対して肯定的割合が全国平均を11.1ポイント、県平均を6.6ポイント上回っている。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の設問でも肯定的割合が全国平均を10.6ポイント、県平均を5.0ポイント上回っていることから、いじめゼロ強調週間等の学校行事の成果が表れている。

○「地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思いますか」の設問で肯定的割合が全国平均を22.5ポイント、県平均を18.2ポイント上回っていて、総合的な学習の時間での地域探索活動やあったか活動などの地域奉仕活動の継続の成果が表れている。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問に対しての肯定的割合が、全国平均を6.9ポイント上回っている。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の設問においても肯定的割合が全国平均を8.8ポイント、県平均も6.9ポイント上回っていることから、教員と良好な関係を築くことが出来ている。「学校に行くのは楽しいと思いますか」という設問の肯定的割合が、全国平均を8.8ポイント上回っていることから、生徒たちが充実した学校生活を送ることが出来ていることが分かり、今後も教育相談や個別相談等を通じて、生徒との良好な関係を築いていく。

○1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめること活動を行っていましたか」の設問において、肯定的割合が全国平均を10.5ポイント、県平均を5.8ポイント上回っている。また、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の設問においても肯定的割合が全国平均を9.3ポイント、県平均を5.1ポイント上回っていることから、普段の授業において、自分の考えをまとめたり、振り返ったりする活動を通して主体的に学ぼうとする態度が身につけていることが分かる。

●「普段、1日当たりどれぐらいの時間、テレビゲームをしますか」の設問において、4時間以上の割合が20.5ポイントで全国平均を3.9ポイント、県平均を7.4ポイント上回っている。家庭において、PCやスマホの使用時間が多く、ゲームやインターネットの視聴時間が長いことが分かる。今後もスマートフォンやPCの使い方について、継続的に指導していく。

●「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか」の設問において、3時間以上が1.1ポイントで、全国平均を8.1ポイント、県平均を5.6ポイント下回っている。また、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の設問において肯定的割合が25.0ポイントで、全国平均を3.2ポイント、県平均を4.5ポイント下回っている。家庭において、計画的に学習をする習慣が身につけていないことが分かる。家庭学習の仕方をアドバイスしたり、自主学習ノートを質問専用のノートとして活用したりするなど工夫をして、生徒自ら学ぼうとする力を身につけさせていく。

宇都宮市立城山中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学力の定着と向上	学習目標の明確化と、定着のための振り返りの充実	学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか、という質問に対しての肯定的割合は県や全国と比べても低くはなかったが、国語、数学の正答率は低かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
1日当たりのゲームやインターネット使用時間が全国平均を上回っていたことと家庭学習時間が全国平均を下回っていること	家庭学習の質の向上を目指した指導の工夫	定期的に教科ごとに課題を出したり、自学ノートの内容について指導をしたり、家庭学習を充実させ、基礎・基本を定着を図る。